

蒲都市
自発的自治体レビュー2025

目 次

1 市長メッセージ

「ウェルビーイングが実感できる持続可能な地域を目指して」

2 UNCRD 所長からのメッセージ

3 はじめに

SDGs 達成に向けた地域の役割と VLR

4 ハイライト

(1) SDGs を推進するための 2 つの柱

(2) UNCRD との連携

5 序章

(1) 背景

(2) 人口

(3) 蒲郡市の特徴

ア 笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり

イ 人と文化を未来につなぐまちづくり

ウ 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり

エ にぎわいと元気あふれるまちづくり

オ 人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくり

カ 市民とともに歩むまちづくり

6 レビューの準備のための方法論とプロセス

(1) VLR 策定に係る経緯

(2) モニタリング手法の紹介

7 政策と可能性のある環境

(1) SDGs の実施に関する国との関わり

(2) 持続可能な開発目標と VLR のオーナーシップの創出

(3) 地域の枠組みへの持続可能な開発目標の組み込み

(4) 誰一人取り残さない

(5) 構造的な問題

ア 人口構造の変化

- イ 経済・社会の進展
- ウ 地域空間・インフラの変化
- エ 安全・安心な暮らしへの備え
- オ 自主自立のまちづくりの進展

8 実施手段

- (1) 多様な主体とのパートナーシップ
 - ア SDGs 推進のための官民連携事例
 - イ 技術を持つ企業との連携による社会課題解決
- (2) 実施体制

9 目標・ターゲットの進捗状況

- (1) SDGs 達成度評価
 - ア ゴールごとの達成度
 - イ 全国平均との比較
 - ウ 2015 年からの変化
- (2) SDGs ローカル指標
 - ア 総合計画を支える SDGs ローカル指標と優先的 KPI
 - (ア) 健康・福祉
 - (イ) 教育
 - (ウ) 安心・安全
 - (エ) 産業
 - (オ) 都市基盤整備
 - (カ) 地域・行財政
 - イ 指標ごとの達成度
 - ウ 2020 年からの変化
- (3) SDGs 達成度指標と SDGs ローカル指標の比較

10 今後のステップ

11 付属書

- (1) SDGs 達成度指標
- (2) SDGs ローカル指標

1 市長メッセージ

「ウェルビーイングが実感できる持続可能な地域を目指して」

蒲郡市は、美しい自然とともに歩みながら、その多様な恵みをいかして独自の文化や産業を創り上げ、豊かな地域を築きあげてきました。豊かな自然の中で市民の健康と暮らしを守り、誰もが健やかに暮らすことができる地域づくりを行っています。

蒲郡市は、地域全体でのウェルビーイングの向上を目指し、2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す”ゼロカーボンシティ”とサーキュラーエコノミーを温室効果ガスの排出ゼロにするための手段だけでなく、都市としてまちづくりの柱としてサーキュラーエコノミーを積極的に推進する”サーキュラーシティ”を推進しています。さらには、経済、社会、環境の三側面を統合的に成長させ、持続可能で強靱な都市の実現を目指しています。

蒲郡市では、まちづくりの基本的な理念として蒲郡市民憲章を定めています。”ひとづくり”、“いえづくり”、“まちづくり”の市民憲章を踏まえ、市民や事業者、行政などが一体となったまちづくりを進めています。蒲郡市は2024年に市制施行70周年を迎えましたが、これからも、先人たちが積み重ねてきたまちづくりの成果を継承し、さらに発展させ、一人ひとりが主役となり、誇りと愛着をさらに深めていくことで未来の蒲郡に繋げ、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

VLRを通じて、評価・モニタリングを行い、現在のまちの状況を客観的に把握することができました。現在推進しているまちづくりに加え、今後も継続的に評価・モニタリングすることで地域づくり、都市経営に活かしてまいります。

最後に、これまで自治体SDGsモニタリング・評価ツールの開発をリードし続け、VLR発行にあたり多大なるご支援をいただきました国際連合地域開発センター（UNCRD）様には厚くお礼申し上げます。ステークホルダーの皆様と一体となって「社会課題の解決」と「経済の活性化」、「社会・環境への負担軽減」に取り組み、SDGsの達成さらには本市が目指す”ゼロカーボンシティ”、“サーキュラーシティ”の実現により、皆様がウェルビーイングを実感できる持続可能な地域となるようまちづくりを進めてまいります。



2025年8月

蒲郡市長 鈴木寿明

2 UNCRD 所長からのメッセージ

はじめに、蒲郡市がこのたび自発的自治体レビュー（VLR）を取りまとめ、SDGs の取組状況を国内外に発信されたことに、国際連合地域開発センター（UNCRD）を代表して心より敬意を表します。

近年、国際社会は気候変動、地政学的不安、社会的分断といった複合的な課題に直面しており、2030 年までに持続可能な開発目標（SDGs）を実現するための「行動の 10 年（Decade of Action）」が改めて問われています。2023 年の SDGs サミットでは、SDGs の加速化に向けたインパクト・イニシアティブとして、ローカライゼーションが取り上げられ、都市や地域が果たす役割の重要性がこれまで以上に高まっています。こうした状況のもと、地域レベルでの進捗把握と透明性の確保を目的とした VLR の実施は、世界各地で急速に広がりを見せています。日本国内においても VLR の取組は着実に広がっており、各地方自治体が積極的にそれぞれの地域特性を踏まえた SDGs のローカライゼーションと進捗状況の可視化に努めています。

蒲郡市は、ゼロカーボンシティおよびサーキュラーシティの実現に向け、2050 年の温室効果ガス実質排出ゼロを目指すとともに、サーキュラーエコノミーの実践を市全体で進めています。食、健康、消費、観光、交通、教育、ものづくりの 7 分野を重点領域に設定し、市民・事業者・行政が連携しながら、経済・社会・環境の三側面を統合的に成長させるまちづくりに取り組んでおり、その先進的な姿勢は全国の自治体にとても大きな示唆となるものです。

UNCRD は、これまでも蒲郡市をはじめとする地方自治体や民間企業と連携し、「自治体 SDGs モニタリング研究会」などの活動を通じて、地域の実情に即した SDGs モニタリング・評価ツールの開発と活用を支援し、SDGs のローカライゼーションの推進に取り組んでまいりました。今回の VLR の公表は、こうした連携の成果であると同時に、蒲郡市が今後、より戦略的に政策を形成し、多様な主体との協働を一層深化させていくための大きな前進となるものと確信しています。

蒲郡市のこうした先駆的な取組が、日本そして世界各地の地域における SDGs の実践をさらに加速させることを期待するとともに、蒲郡市が持続可能な発展と市民の皆様の幸福に満ちた未来を迎えられることをお祈り申し上げます。



国際連合地域開発センター（UNCRD） 所長

村田 重雄

3 はじめに

SDGs 達成に向けた地域の役割と VLR

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（Millennium Development Goals, MDGs）の後継として、2015年9月の国連持続可能な開発サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標です。持続可能でよりよい世界を目指すための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（No one will be left behind）」ことを誓っています。SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、また企業や地域、市民を含むすべてのステークホルダーが手を取り合って達成を目指す国際目標です。

この2030アジェンダを採択する際、国連加盟国はSDGsの実施に際して地方政府と密接に協力することを約束しています。そのため国際社会や各国政府の呼びかけを受けて、世界中の各地域では2030アジェンダを積極的にローカライズし、地方自治体が市民に対しSDGsへの理解を呼びかけ、具体的な計画と実行に向けて動き始めています。

世界各地で多様かつ独自の取組事例が増加しつつあるのと並行して、各地域が目指す目標に対して、取組のフォローアップを行い、進捗をモニタリングし、レビューするための枠組や仕組みづくりのニーズも急速に高まりつつあります。

そのうち、現在、世界各地の地方自治体で行われている取組の1つがVLRです。これは各国がSDGs実施における様々な経験を共有し、進捗を確認し推進する場としてプロセスの中心に位置づけられており、国連ハイレベル政治フォーラム（High Level Political Forum：HLPF）の閣僚会議で発表を行う定期的レビューであるVNR（Voluntary National Review）の枠組を地域レベルに応用したものです。

VNRは、(1)組織メカニズム、(2)国家枠組みへのSDGsの組み入れ、(3)2030アジェンダの原則の主流化、(4)SDGsのオーナーシップ醸成、(5)SDGsに関連する優先課題の概況及び好事例の主に5つの視点から各国政府の取組を振り返るものであり、日本政府も2017年、2021年、2025年の3度同レビューを実施しています。

国連経済社会局（UN DESA）は、地方自治体に対して、「SDGs実施に関する自発的自治体レビュー（VLR）のためのグローバルな指導要素」の提供やワークショップなどを通じて支援を行っています。また、UNCRDが中心となり、日本の自治体が進めるSDGs達成に向けた取組を包括的にモニタリングするためのツールを開発しています。さらに、地方自治体のSDGs推進に向けた動きを総合的に支援している、国際的な都市・自治体連合（United Cities and Local Governments：UCLG）及び国連ハビタット（United Nations Human Settlements Programme：UN-HABITAT）は、2020年にVLRのためのガイドラインを発行し、世界各都市のVLRの内容について比較調査を実施しています。本レビューにおいても、本ガイドラインに基づき作成しています。

こうした世界の動向を的確に捉え、SDGsの後半を迎える中、蒲郡市はVLRの作成を通じて、2030年に向けて、蒲郡市としてどのように2030アジェンダへの貢献することができるか、そして持続可能な都市への継続的な発展のために、強み、弱みを把握し、どのような戦略的政策をすべきかを検討します。



4 ハイライト

蒲郡市は、2030年の将来都市像を「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」と定め、先人たちが培ってきた伝統産業や地域の固有資源を守りながら、さらなる発展をしていくため、未来志向型の事業にも挑戦を重ね、シビックプライドを醸成し、蒲郡市に関わる皆さんが誇りと思う蒲郡とするために、市民・事業者・行政が一体となった持続可能なまちづくりを推進しています。

（1）SDGs を推進するための2つの柱

SDGs 推進及び蒲郡市に関わる皆様のウェルビーイングの向上のため、重点的に取り組んでいる事業として「ゼロカーボンシティ」と「サーキュラーシティ」の推進があります。2021年に2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」とサーキュラーエコノミーを地域全体で取り組み、積極的に推進する「サーキュラーシティ」を目指すことを2021年に表明しました。これら2つの施策は密接に関係し、相互に補完する関係にあり、両輪で進めることで、経済・社会・環境の三側面を成長させ、持続可能で魅力的でウェルビーイングを感じられる地域づくりを推進し、SDGsの達成を加速させています。

サーキュラーシティにおける将来ビジョンを「つながる 交わる 広がる サーキュラーシティ蒲郡」とし、食、健康、消費、観光、交通、教育、ものづくりの7つを重点分野として定めています。本市の地域資源や地域産業を活かしながら、行政だけではなく、事業者、市民、学校など様々なステークホルダーが関わり合い、循環型ビジネスの創出や循環型な取組が広がっています。



サーキュラー
シティ
蒲郡

CIRCULAR
CITY
GAMAGORI

事例 1：粗大ごみのリユース促進

市民などから持ち込まれる粗大ごみが蒲郡市のクリーンセンターに毎年約 1,200 t 持ち込まれ、埋立て処分などを行っています。粗大ごみの中でも、まだ使用できるものは多くあります。少しでも有効に活用するために入札形式による粗大ごみのリサイクルバザールのほか、まだ利用できる粗大ごみのネット販売を全国の自治体に先駆けて 2022 年から始め、2024 年度は 2t を超える粗大ごみを必要な方へリユースしました。2023 年度には全国の自治体向けに粗大ごみのネット販売の成果や効果を含めたマニュアルを作成し、全国の自治体へ横展開を促しています。

<関連ゴール：12>



事例 2：学校での SDGs 教育

蒲郡市内の小中学校では行政や市内事業者が連携した SDGs に関する教育を行っています。学校の給食の残りをコンポストを利用して堆肥にする活動や未来の蒲郡のために児童自らがどのような取組ができるかを考える授業などを行っています。学校単位でもサステナブルな行動が根付いています。

<関連ゴール：2、4、12、17>



事例 3：地域レジリエンス向上と脱炭素化の同時実現を目指した公共施設への自立・分散型エネルギー設備等の導入

市の指定避難所に指定されている施設への太陽光発電設備、蓄電池設備、V2X（電気自動車等充放電設備）の導入を進めています。太陽光発電設備でつくられた電気は蓄電池に貯められ、主に災害が発生した際に指定避難所の機能維持のために使用されます。蓄電池が満充電になった時は、施設で使用する電気の一部として使用しています。また、V2X を活用することにより、災害時において、電気自動車へ電気を充電することや電力が不足している施設に電気自動車から電気を給電することが可能です。これにより、物資だけでなく、エネルギーを分配することが可能となります。

なお、蓄電池には電気自動車のリユースバッテリーを活用した蓄電池を採用し、製造工程における CO2 削減やレアメタルなどの資源の再利用を推進しています。

<関連ゴール：7、9、11、13、17>



（自動車のリユースバッテリーを活用した蓄電池）



（公共施設への太陽光パネルの設置）

（2）UNCRD との連携

国連地域開発センター（UNCRD）は、日本の中心部である中部エリア（愛知県名古屋市）に位置する唯一の国連本部機能を有する国連組織です。1971 年に設立されて以降、開発途上国の政府職員を対象とした研修等を通じて、地域開発やキャパシティ・ビルディングに貢献してきました。また、UNCRD は UN DESA の持続可能な開発目標部（DSDG）に属していることから、2015 年以降は、日本の地方自治体による SDGs の推進や、その取組の海外への発信においても重要な役割を担ってきました。

蒲郡市は、SDGs に関する職員研修や普及啓発、事業者での取組の推進を目的としたイベントを通じて UNCRD と連携してきました。また、国際会議の場で UNCRD と連携して、日本の大半を占める小都市のローカルレベルの取組を世界に発信することで、SDGs 達成に大きく前進するものとなっています。

事例 4 : アジア太平洋 3R・循環経済推進フォーラム、2024 International Mayors Forum

UNCRD と連携して 2023 年には「アジア太平洋 3R・循環経済推進フォーラム」、2024 年には「International Mayors Forum」の 2 つの国際会議に参加し、蒲郡市における SDGs の各種取組や SDGs のローカル指標について発信しました。蒲郡市を発信するとともに世界の自治体間における情報交換や多様なステークホルダーの方とつながることができています。



(2024 International Mayors Forum)

<関連ゴール：1～17 すべてのゴール>



(第 11 回アジア太平洋 3R・循環経済推進フォーラム)

5 序章

(1) 背景

蒲郡市は、1972 年に「蒲郡市民憲章」を制定し、本市の望ましいまちづくりの姿を掲げ、豊かな自然や美しい三河湾の恵み、恵まれた地理的条件の中で、先人たちのたゆまぬ努力により、社会・産業・文化など調和のとれた豊かな地域として発展してきました。この市民憲章をまちづくりの基本理念とし、この理念に基づき本市の目指す将来像を「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」と定め、市民・事業者・行政が一体となったまちづくりを推進しています。

【蒲郡市民憲章】

- 1 「はい」「ありがとう」「すみません」、愛のことばでひとづくり
- 2 心と体をすこやかに、笑顔で働きいえづくり
- 3 海と空を美しく、みんなの力でまちづくり

(2) 人口

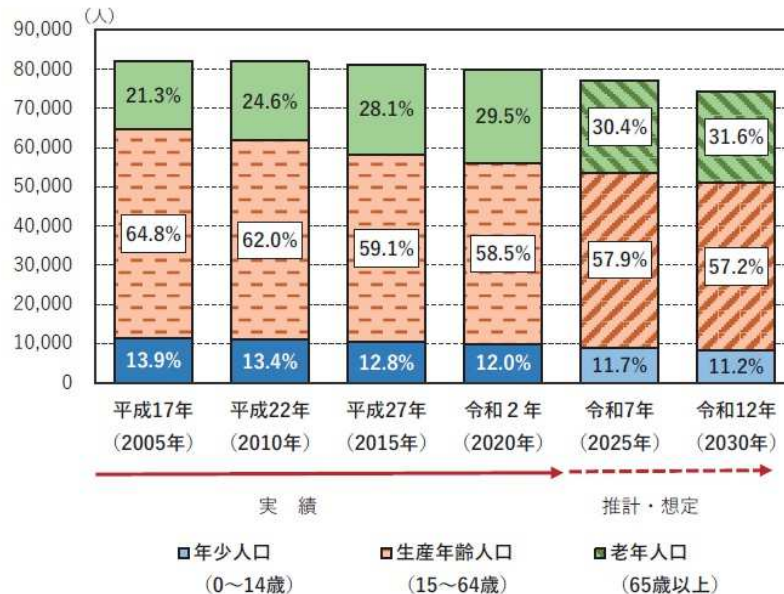
日本政府総務省統計局が実施している国勢調査結果（2020 年実施）によると、蒲郡市の総人口は 79,538 人で、前回の調査よりも 1,562 人の減少となっています。今後も減少傾向が続き 2030 年には 74,462 人まで減少することが予想されています。



(注) 実績値は、平成27年までは国勢調査、令和2年は住民基本台帳人口（10月1日）を示しており、推計値は国立社会保障・人口問題研究所資料による。

年齢別の人口では0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口が減少し、65歳以上の老年人口が増加しており、人口減少とともに今後もこの傾向が加速していくと予想されています。

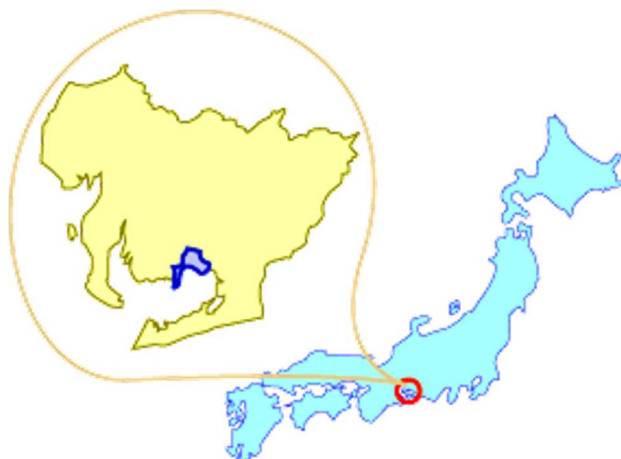
年齢別人口の構成比の想定



(注) 平成 17、22 年は年齢不詳を除いた割合

(3) 蒲郡市の特徴

蒲郡市は、北と東西の三方を山と丘陵部に囲まれ、南側は三河湾に面しており、三河湾国定公園の中心地です。また、本市は知多半島と渥美半島に囲まれた三河湾の奥に位置しています。温暖な気候を生かした施設園芸が盛んであり、特にみかんの生産が有名で、ハウスみかんについては全国有数の生産量を誇ります。それと同時に、海や温泉などの独自の資源を活用した観光産業も、古くから本市の発展を支えています。農業・漁業などの第一次産業、製造業などの第二次産業、サービス業などの第三次産業がバランスよくあり、6つの基本目標に沿った、まちづくりを推進しています。



ア 笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり

少子高齢社会に対応していくため、安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て環境を整備するとともに、健康づくり、地域医療、福祉を充実し、生涯を通じて健康な生活を送ることができ、地域で互いに助け合い、支え合う福祉社会の実現に向けた笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくりを行っています。

イ 人と文化を未来につなぐまちづくり

子ども達の個性や生きる力を育む学校教育や生涯学習・スポーツの充実に努めるとともに、本市の伝統・文化の大切さを伝えることにより、我がまちに愛着と誇りの持てる次代を担う人材や心豊かな人を育み、人と文化を未来につなぐまちづくりを行っています。

ウ 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり

身近な自然環境を保全しつつ、ごみの減量や分別収集による資源の有効利用と環境美化の推進により、環境に負荷を与えないまちづくりを目指すとともに、循環型社会の形成などにより、誰もが自然を生かした潤いのあるまちづくりを目指します。さらに、災害に強いまちづくりや交通安全・防犯対策の強化に努めるなど、豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくりを行っています。

エ にぎわいと元気あふれるまちづくり

産業間の連携強化やロケーション撮影誘致、全日本ラリー選手権「ラリー三河湾」などのシティセールス、新たな産業の創出や企業立地支援の充実、企業誘致の推進により地域産業の振興や雇用の創出を図り、にぎわいと元気あふれるまちづくりを行っています。

オ 人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくり

市民の生活や地域経済の発展を支えるため、良好な市街地整備や道路・交通ネットワーク、港湾の充実を図るとともに、より快適な暮らしを実現するための生活基盤の整備を進め、災害に強く、人と人がつながり、快適な暮らしを支えるまちづくりを行っています。

カ 市民とともに歩むまちづくり

社会の変化や多様化する市民のニーズに対応していくため、地域コミュニティの活性化や市民一人ひとりが活躍できる環境づくりを行い、市民とともに歩むまちづくりを目指しています。また、持続可能なまちづくりのため、より適正な行財政運営を推進しています。

6 レビューの準備のための方法論とプロセス

(1) VLR 策定に係る経緯

UNCRD が主導する自治体 SDGs モニタリング研究会に参画し、自治体、企業、国連機関のそれぞれの経験や知識を共有しています。このプロセスを通じ、都市としての成長を把握するために定期的な評価やモニタリングの重要性を認識しました。自治体 SDGs モニタリング研究会は、2021 年 5 月に「自治体 SDGs モニタリングの手引き」を発行し、具体的な SDGs の達成度とガバナンスの評価手法を示しています。また、日本の自治体が進める SDGs 達成に向けた取組を包括的にモニタリングするためのツール「自治体モニタリングツール」を展開しています。本 VLR は、自治体 SDGs モニタリングの手引き及び自治体モニタリングツールに加えて、ローカライズさせた蒲郡市独自のローカル指標を使用して作成しています。

(2) モニタリング手法の紹介

蒲郡市では、SDGs の進捗状況を把握するために、2 つの種類の指標を用いています。1 つは、「自治体 SDGs モニタリングの手引き」にある「自治体 SDGs 達成度指標 (SDG Achievement Indicators for LRGs)」で、全国平均との比較や客観的な進捗の把握に用いられます。もう 1 つは、市民とのワークショップ等を通じて策定した独自の「SDGs ローカル指標 (Gamagori Local Indicators)」です。

自治体 SDGs モニタリングツールは、地域の実情に応じてローカライズされたアウトカム指標を「自治体 SDGs 達成度指標」に用いることで、地方自治体ごとの SDGs 達成状況を定量的に評価できるツールです。2030 アジェンダに掲げられた 169 のターゲットのうち、自治体レベルで対応可能であり、かつオープンデータにより数値の取得が可能なターゲットを対象に、自治体の規模に応じて 56 または 49 の指標に絞り込んで設定しています。これらの指標に基づいて、各ゴールの達成状況を 0% から 100% で表し、SDGs の進捗を客観的に把握・評価するものです。

さらに、蒲郡市では SDGs の進捗を図るため、自治体 SDGs 達成度指標に準拠し、169 のターゲットを確認し、蒲郡市で数値の取得が可能なローカライズした指標として 22 の独自の SDGs ローカル指標を定めています。指標ごとに達成度を 0% から 100% で表し、進捗を評価しています。これら 2 種類の指標によって、市の施策と SDGs の総合的なモニタリングが可能となり、自治体の強みと弱み、SDGs の達成状況を詳細に把握することができます。

7 政策と可能性のある環境

(1) SDGs の実施に関する国との関わり

国は、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームを整備しており、蒲郡市もそのプラットフォームに参加しています。2025 年 5 月末時点で、全国 1,200 以上の自治体を含む約 8,000 の団体が参画しており、日本における SDGs 推進の重要な役割を担っています。

2022 年度には、本プラットフォームから、蒲郡市が実施している粗大ごみのフリーマーケットアプリでの販売によるごみの減量とリユース促進が「地方創生 SDGs 達成へ向けた官民連携優良事例」として選定・表彰されました。



(2022 年度地方創生 SDGs 官民連携優良事例表彰式)

(2) 持続可能な開発目標と VLR のオーナーシップの創出

多様な方と連携し、SDGs に関する周知を促進するとともに市民一人ひとりが行動することが重要であることから、楽しんで学べる「SDGs すごろく」や SDGs の達成のためにできるアクションを取りまとめた「みんなのアクションプラン」を作成し、情報発信しています。

事例5：「SDGs すごろく」、「みんなのアクションプラン」

「SDGs すごろく」は市内の高校生や市民の皆さんとワークショップを行い、すごろくを通じて楽しみながら SDGs を身近に感じ、具体的な行動ができるよう作成しました。また「みんなのアクションプラン」は、市内の小学生と「守りたい蒲郡の魅力」と「何とかしたい蒲郡の課題」のためにみんなで一緒にチャレンジしたい6つプラス1（ごみを出さない、完食する、ごみひろい、あいさつをする、イベントに参加する、ボランティアに参加する、仲間を増やす）のアクションを定めました。

＜関連ゴール：4、11、14、15、17＞



（がまごりじなる SDGs すごろく）

<https://www.city.gamagori.lg.jp/unit/kikaku/sdgs-sugoroku.html>



（みんなのアクションプラン）

<https://www.city.gamagori.lg.jp/site/circularcity/actionplan.html>

（3）地域の枠組みへの持続可能な開発目標の組み込み

将来を見据え長期的な視野に立ち、計画的な市政運営を図るため、まちづくりの指針として市の最上位計画である第五次蒲郡市総合計画があります。計画期間を2021年度から2030年度とし、SDGsの考え方を踏まえ、10年後の将来都市像を「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」としています。市民とともに実現を目指すため、将来像や目標、施策や主要事業を体系的に示し、市民と情報共有を行うとともに将来のまちの主役である若者の意見を把握し、市民と行政が一体となって進める計画になっていることが特徴です。

SDGsの理念は総合計画にも明記しており、理念を踏まえ、総合計画を策定しています。各施策を紹介するページでは、それぞれの施策が具体的にどのゴールの達成に寄与するかをアイコンで示し、巻末には各アイコンの紹介と各ゴールについて説明することで、施策とゴールの紐づけを行い、SDGsを計画に組み入れています。また、市としてのSDGsの方針として「SDGs推進方針」を定め、

それぞれの部署で策定している分野別の計画においても同様に各事業と SDGs の理念を組み込み、全庁的に SDGs の紐付けを行っています。

事例 6：社会課題解決に向けた実証事業

事業者におけるサーキュラーエコノミーに関する事業の実装前の実証段階を支援する実証実験プロジェクトを実施しています。サーキュラーシティ蒲郡の7つの重点分野に沿った様々な実証が行われています。2023 年度には6つ（①枯渇性資源を使用しないモビリティ、②カーボンリサイクル、③一般廃棄物の燃料化、④製造由来ハギレの繊維アップサイクル、⑤バイオマス資源の繊維化、⑥布団のリサイクル）、2024 年度には5つ（①端材アップサイクル、②プラスチック再製品化、③循環型なテーマパーク、④旅館の使い捨て歯ブラシアップサイクル、⑤枯渇性資源を使用しないパーソナルモビリティ）の実証プロジェクトを行い、蒲郡市を舞台に様々な内容をテーマにした実証事業が全域的に行われています。さらに本実証事業から事業化され始めており、地域で取組が進んでいます。

<関連ゴール：8、9、11、17>



事例 7：サーキュラーシティカンファレンス - Blue Work Gamagori -

サーキュラーシティを推進するためにはイノベーションの創出や新しいライフスタイルを浸透させていくことが必要です。全国から事業者が集まるサーキュラーシティカンファレンス- Blue Work Gamagori -を2022 年から開催し、全国からサーキュラーエコノミーを推進したい方が参加し、様々なアイデアが生まれています。カンファレンスの開催によって新たなビジネスが生まれ、サービスも検討されています。

<関連ゴール：11、14、15、17>



（４）誰一人取り残さない

「誰一人取り残さない」は、2030 アジェンダの強力なメッセージです。年齢、性別、障がい、人種などに関係なく、行政サービスを提供することが求められています。蒲郡市では、誰もがお互いの違いを認め合い、希望に沿った生き方を選択できる社会を築いていくため、2022 年に 2 人のパートナーシップを認証する

「パートナーシップ宣誓制度」を導入し、2024 年には新たにファミリーシップを認証する「ファミリーシップ宣誓制度」を加え、「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を行っています。

また、市民の皆さんの声を市政に反映させるため、誰でも意見を投函できる投書箱を市役所に設置しています。また、まちづくりへの意見やアイデアを直接市長に伝えることのできる「市長への手紙」も実施しています。その他、まちづくりの方針を定める各種計画を策定していく際には市民の皆さんから意見をいただき、パブリックコメントを実施し、市民の皆さんの意見を反映しながら市政運営を行っています。

市民も SDGs を自分ごとと感じられるよう、独自の SDGs ローカル指標を設定していますが、SDGs ローカル指標を設定の際には、市民や市内の高校などでワークショップを重ね、広く意見をいただき、意見を反映しながら指標を定めています。

（５）構造的な問題

蒲郡市の SDGs 達成に大きな影響を及ぼしている社会環境の変化と、構造的な問題や障壁については以下のとおりです。

ア 人口構造の変化

日本及び蒲郡市においては平均寿命が延びる一方で、高齢者の増加、未婚率の増加等の社会構造の変化など様々な要因により少子高齢化が進んでいます。今後も医療費や介護需要の拡大が予測されます。さらに、地域においては若い世代の人口が少なくなり、活気がなくなることが懸念されます。「ひと」が「しごと」を呼び、「まち」が活性化する好循環を確立することに加え、地域の特性を活かし、「しごと」起点と併せ、「ひと」起点、「まち」起点という多様なアプローチを柔軟に行っていく必要があります。

イ 経済・社会の進展

ロボットや人工知能など次々と新たな技術が開発され、これらは産業発展だけではなく、生活面でも活用することができ、住宅や地域の防犯・防災、省エネ、見守り、移動、買い物などの利便性が高まることが期待されます。地域経済の再構築、ICT（情報通信技術）活用の加速化、ライフスタイルや価値観の変化など時代に即した柔軟な対応が必要です。

ウ 地域空間・インフラの変化

人口減少とともに高齢化が進み、高齢者の施設への入居や若者が都市部へ流出することなどの理由により、空き家や空き地の増加が進んでいます。防災上、防犯上の危険性が高まり、周辺環境が悪化し、人口流出をさらに加速させることが予想されます。利用されない空間を有効に活用して、周辺環境を維持・改善する方策などが求められます。また、道路、橋梁、上下水道を含めた公共施設の老朽化に伴い、施設の更新・維持コストが膨らむ見込みのため、施設量の適正化や運営の効率化など財政負担の軽減が求められています。

エ 安全・安心な暮らしへの備え

国内外で気候変動や、大規模な災害が多く発生しています。自然災害への備えの重要性に加え、自分の身は自分で守るという「自助」、地域で助け合うという「共助」、行政機関等による支援である「公助」の大切さが改めて認識されています。

オ 自主自立のまちづくりの進展

個性豊かなまちづくりを進めるために、地方自治体においては財政基盤を強化し、必要な権限を整理していくことが求められます。健全な財政運営を維持するために、行財政運営の一層の効率化と安定的な財源の確保を図るための強化が課題です。このような状況の中、地域においては、市民に身近な課題の解決に取り組み、地域自治力の強化を図るため、地域福祉、子育て支援、防災・防犯、観光交流等に尽力する様々な市民活動グループをサポートするとともに、地域組織、各種団体、学校、行政などが互いに連携した取組を一層推進していく必要があります。

8 実施手段

(1) 多様な主体とのパートナーシップ

人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域の活性化を実現させるためには、多様な主体による連携が必要です。市内のステークホルダーだけではなく、市外の企業や団体とパートナーシップを組んで事業を展開しています。SDGs 推進に関する連携協定の締結などによって、行政だけでは解決できない社会課題などを多様なステークホルダーと協力しながら推進しています。

ア SDGs 推進のための官民連携事例

市内の金融機関や経済団体などと SDGs 推進のための連携協定を締結しています。「SDGs を原動力とした地方創生」を目指し、地域企業や団体、市が一丸となって SDGs の普及や事業実施の際にも連携を図り、協力することで、市内の SDGs に関するオーナーシップを高めています。



(SDGs の推進に関する連携協定締結式)

イ 技術を持つ企業との連携による社会課題解決

SDGs の達成のためには、継続的かつ幅広いノウハウ・技術・資金などが必要になります。このため、蒲郡市ではパートナーシップに基づく「実証の場」、「実践の場」として独自技術を持つ企業にノウハウや技術提供を受けながら、再資源化を図るとともに経済的な価値向上を図っています。

具体的取組としては、市民が生活の中から排出された一般廃棄物のうち、粗大ごみ、バイオマス資源（木材、食品）、使用済紙おむつなどの再資源化や減量化を図っています。



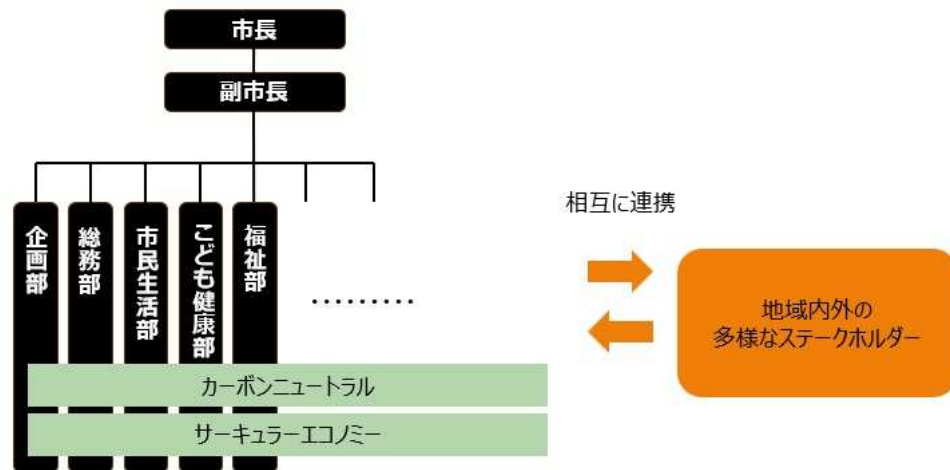
(一般廃棄物由来のバイオマス発電燃料)



(使用済紙おむつ由来のパルプ)

（２）実施体制

蒲郡市は、SDGs の推進を図るための専任組織として、企画部企画政策課サーキュラーシティ推進室が窓口となり、組織横断的に SDGs を推進しています。SDGs の普及啓発や個別プロジェクトの進捗を把握しています。また、各施策においても実施体制を整え、組織横断的なプロジェクトについても有機的に連携し、地域内外の多様なステークホルダーと連携して施策を推進しています。



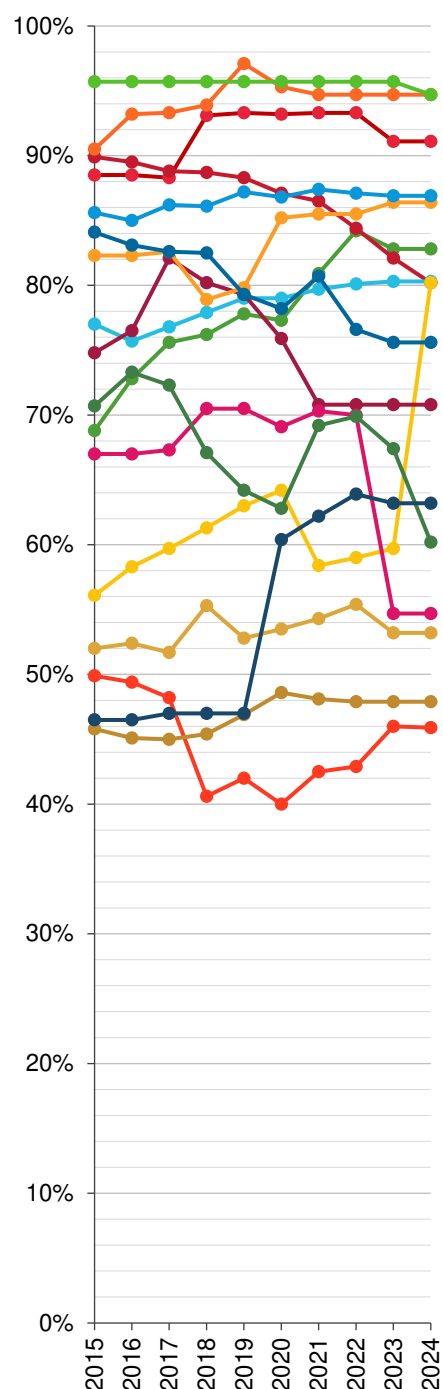
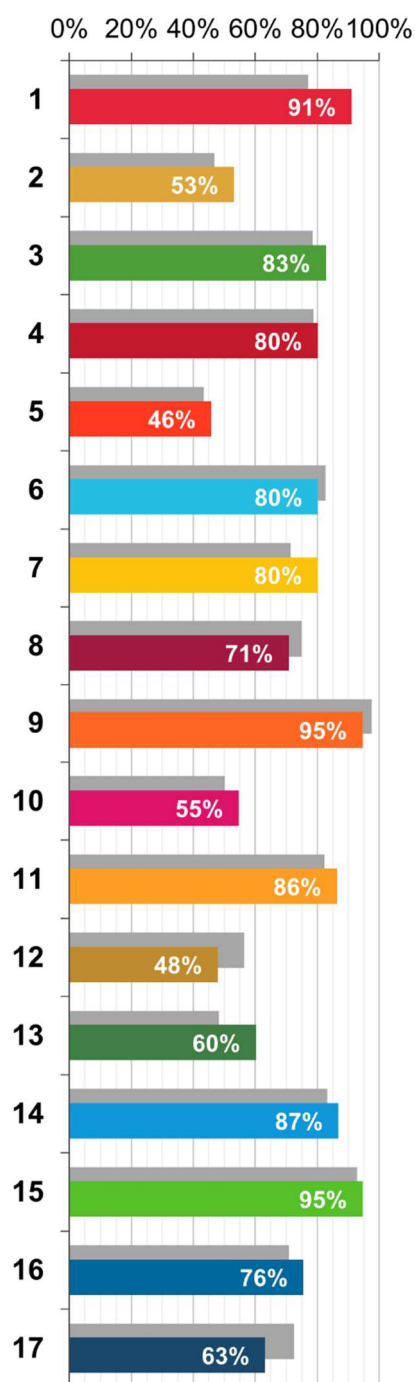
令和7年4月1日現在 15部57課

9 目標・ターゲットの進捗状況

(1) SDGs 達成度評価

「自治体 SDGs モニタリングの手引き」が紹介するアウトカム指標を活用して、2015 年から 2024 年までのデータを用い、蒲郡市における SDGs の達成度に関する進捗状況を確認します。

ゴールごとの達成度と推移

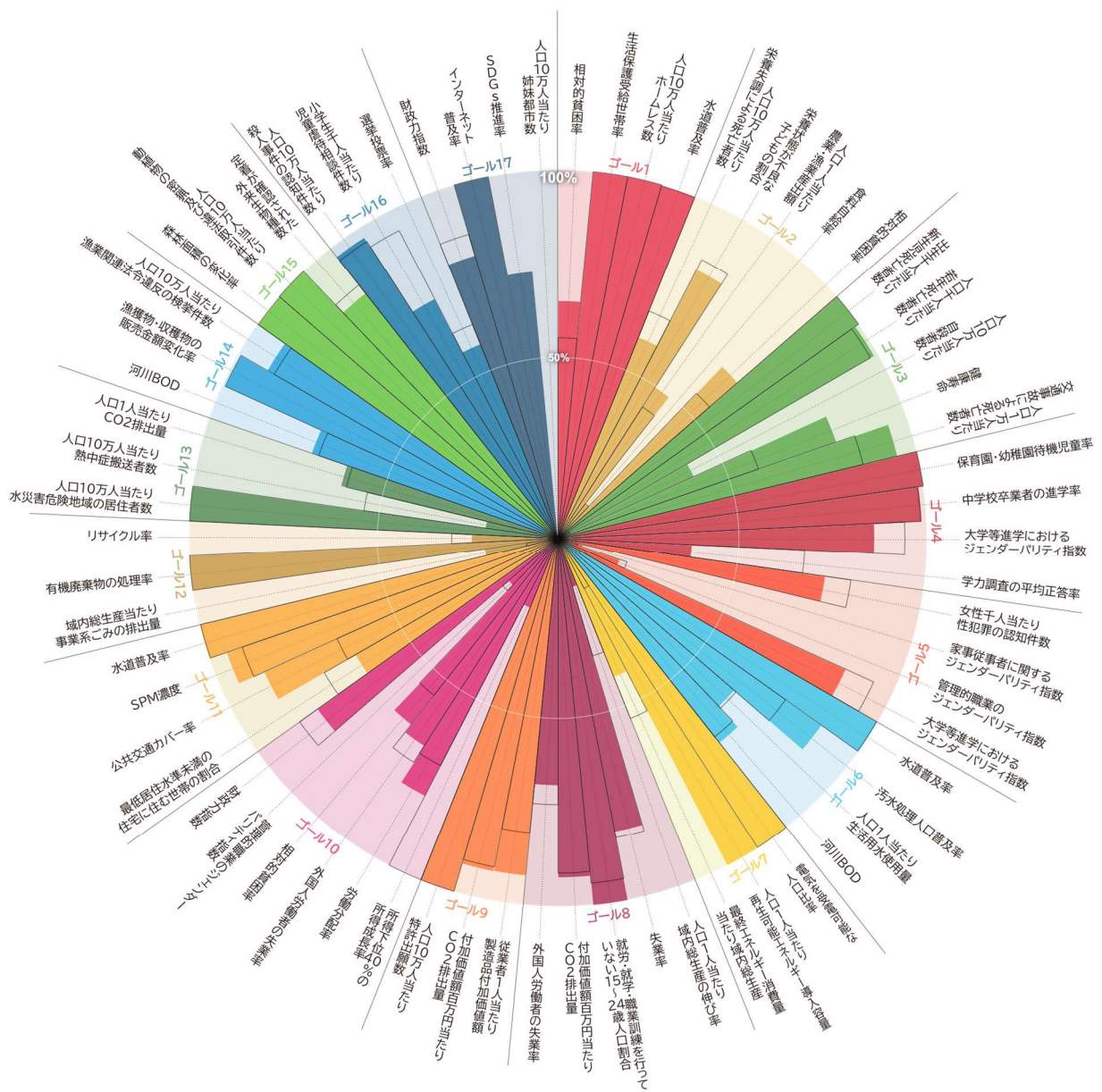


※ グレーは全国平均の達成度

※ 縦軸の数字は SDGs のゴール、横軸は達成度 (%)

※縦軸は達成度 (%)、

横軸は年



※ 各指標の枠のみは 2015 年実績

※ 円の中心が達成率 0%、外側に向かって達成率 100%

ア ゴールごとの達成度

ゴール 1、9、15 で 90%を超える高い達成度を示しています。また、達成度 80%を超えているゴールは 17 ゴール中、9 ゴールと半数を超え、全国の市町村と比較しても高い達成度となっています。一方で、ゴール 5、12 で達成度が 50%以下となっており、ゴール 2、10 で達成度 50%台と、達成度が低い状況となっています。

ゴールごとの達成度



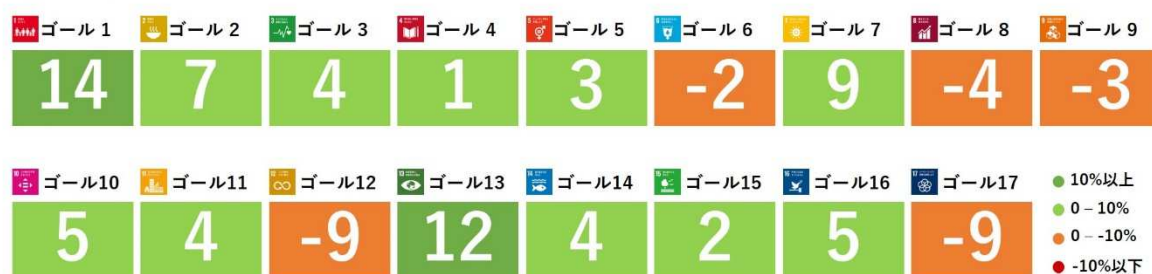
イ 全国平均との比較

全国平均と比較して、10%以上高い項目がゴール 1、13 となっています。ゴール 1 は個別の達成度で見ても 91%と高く、生活保護受給世帯率、人口 10 万人当たりホームレス数の割合が少ない、水道普及率が高いことが要因となっています。ゴール 13 は、人口 10 万人当たり水災害危険地域の居住者数が少ないことが大きな要因となっています。

一方で、全国よりも低い項目はゴール 6、8、9、12、17 の 5 項目があります。特にゴール 12、17 が全国と比較すると両ゴールとも 9%低くなっており、他のゴールよりも差が大きくなっています。ゴール 12 はリサイクル率が全国や愛知県平均と比較すると低く、域内総生産当たり事業系ごみの排出量は年々少なくなってきたり、改善傾向にありますが、全国的にはまだ多い状況であることが要因となっています。また、ゴール 17 は人口 10 万人当たり姉妹都市数が少ないこと、SDGs 推進率が達成に向け、徐々に増加していますが、まだ未達成となっており、全国平均と比較し低くなっている要因となっています。

ゴールごとの達成度が低いとされるゴール 2、5、10、13 は全国平均よりも高い水準にあり、一方で、比較的達成度が高いゴール 6、8、9 については、全国平均を 2~4%下回っています。

全国平均との差

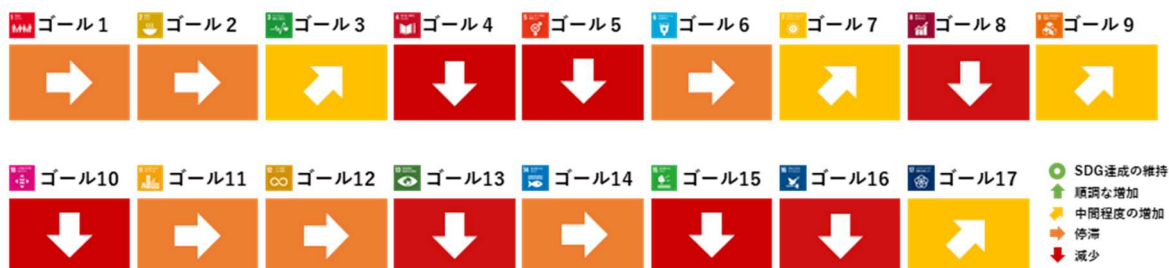


ウ 2015 年からの変化

2015 年から 2024 年の変化を確認するとゴール 7 は 24%の増加、ゴール 3、17 で 10%を超える達成率の増加となっています。ゴール 7 は人口 1 人当たり再生可能エネルギー導入容量が急速に増加しており、要因としては市において公共施設に太陽光発電設備を積極的に設置するとともに、家庭への太陽光パネルの設置にも補助金を出して積極的に設置を推進しています。民間においても木質バイオマス発電所が 2023 年に本格的に運転が開始されたことなどが大きな要因となっていると考えられます。ゴール 3 はゴールごとの達成率や全国との比較においても高い項目ですが、地域一体となった健康づくり施策の実施など意識の高まりなどによって健康寿命が延伸されていることや人口 1 万人あたりの交通事故による死亡者数が減少していることが要因となっています。ゴール 17 は全国と比較すると低い項目ですが、2015 年からの推移でみますと年々達成に向けて順調に増加しています。

一方で、2015 年と比較し、10%以上減少している項目はゴール 4、10、13 となっています。ゴール 4 は、中学生の学力調査の平均正答率の低下や高校・大学に進学する女性の割合が低くなっていることが要因となっています。ゴール 10 は低所得者の割合の減少が近年鈍化しており、新型コロナウイルス感染拡大により、雇用など経済に関する影響が完全に回復していないことが要因として考えられます。ゴール 13 は全国と比較して高い項目ですが、人口 10 万人当たり熱中症搬送者数が近年増加傾向にあり、全国的な気候変動が原因の一つだと考えられます。

2015年からの変化



（２）SDGs ローカル指標

蒲郡市における SDGs の進捗を確認することで、市民もより SDGs を自分ごとと感じられるよう、蒲郡市のまちづくりの礎である市民憲章及び市の最上位計画である総合計画に則り、独自の SDGs ローカル指標を設定しています。蒲郡市における SDGs の現状と達成の経過を評価するため、ローカル指標を用いています。

<独自指標の全体像>



ア 総合計画を支える SDGs ローカル指標と優先的 KPI

蒲郡市では総合計画に紐づいて SDGs ローカル指標を設定しています。SDGs の 17 のゴールを市民憲章、総合計画に基づいて 6 つの基本目標（健康・福祉、教育・文化、安心・安全、産業、都市基盤整備、地域・行財政）を軸に設定しており、市の目標と SDGs を重ねることで、相乗効果を高めています。優先的 KPI を選定の際には、169 のターゲット、総合計画との整合性・関連性を確認し、市内の高校生や市民ワークショップなど多くの方の意見を反映して指標を選定しています。



(ア) 健康・福祉

主なゴール	KPI	
     	指標：本市が子育てしやすいまちだと思える保護者の割合（就学前）	
	2020 年度：72.7%	2030 年度：85.0%
	指標：本市が子育てしやすいまちだと思える保護者の割合（小学生）	
	2020 年度：64.5%	2030 年度：80.0%
	指標：健康づくりに取り組んでいる人の割合	
	2020 年度：47.7%	2030 年度：52.0%
	指標：内臓脂肪症候群該当者の割合	
	2020 年度：24.0%	2030 年度：12.0%

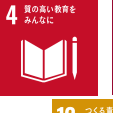
(イ) 教育

主なゴール	KPI	
	指標：授業がわかり、楽しく学習している児童生徒の割合	
	2020 年度：83.9%	2030 年度：90.0%
	指標：楽しい学校生活を送っている児童生徒の割合	
	2020 年度：88.3%	2030 年度：95.0%
	指標：コミュニティ・スクール実施事業者数	
	2020 年度：0%	2030 年度：100%

(ウ) 安心・安全

主なゴール	KPI
   	指標：530 運動実践活動参加者数
	2020 年度：16,009 人 2030 年度：17,000 人
	指標：海岸漂着物回収・処理量
	2020 年度：14,150 kg 2030 年度：40,000 kg
 	指標：犯罪発生件数
	2020 年度：387 件 2030 年度：337 件
  	指標：リサイクル率
	2020 年度：18.3% 2030 年度：25.0%
	指標：温室効果ガス排出量
	2020 年度：544.0 千 t-CO2 2030 年度：470.8 千 t-CO2

(エ) 産業

主なゴール	KPI
   	指標：農産物出荷額
	2020 年度：51 億 6,316 万円 2030 年度：59 億 3,000 万円
  	指標：水産物出荷額
	2020 年度：11 億 3,600 万円 2030 年度：11 億 3,600 万円
    	指標：市内に訪れた観光客数
	2020 年度：679.2 万人 2030 年度：747 万人
   	指標：製造品出荷額
	2020 年度：261,624 百万円 2030 年度：294,105 百万円

(オ) 都市基盤整備

主なゴール	KPI	
  	指標：下水道普及率	
	2020 年度：63.7%	2030 年度：83.0%
 	指標：鉄道駅から 1 km、バス停から 300m 内の居住者割合	
	2020 年度：89.7%	2030 年度：93.0%
	指標：日常の移動に不便を感じている人の割合	
	2020 年度：31.0%	2030 年度：29.0%
   	指標：公園の利用者満足度	
	2020 年度：36.3%	2030 年度：38.5%

(カ) 地域・行財政

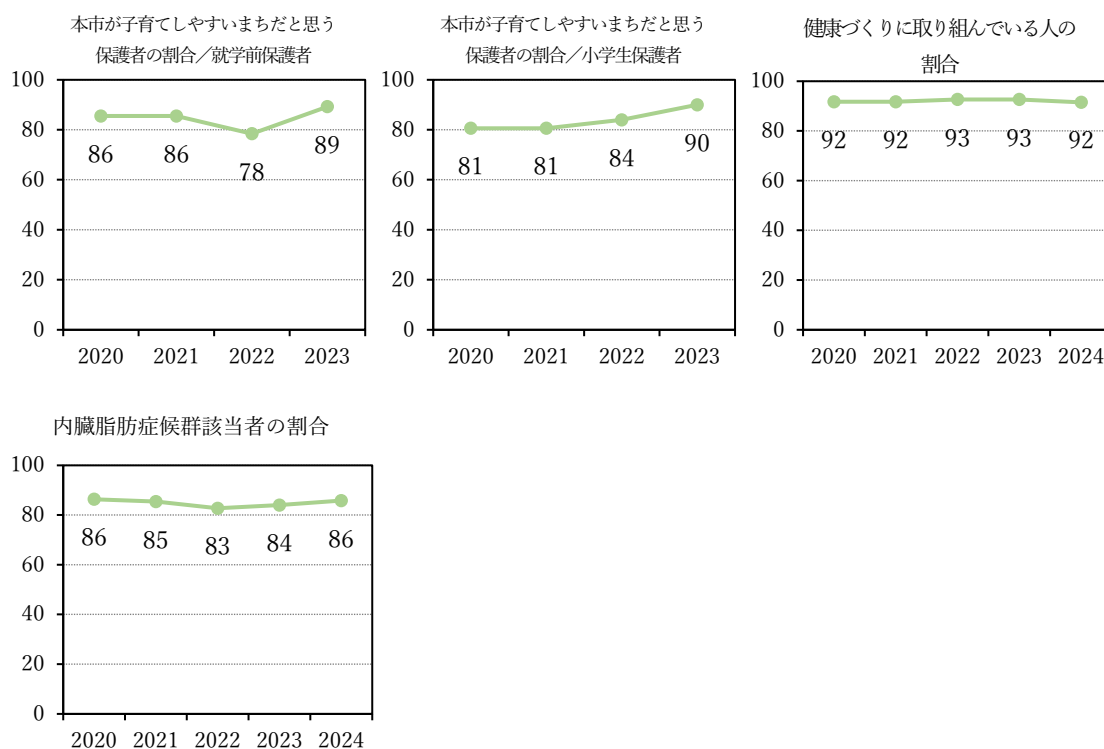
主なゴール	KPI	
      	指標：「男女が平等に生活や仕事に取り組んでいる」と思う割合	
	2020 年度：30.0%	2030 年度：35.0%
	指標：ホームページへのアクセス数	
	2020 年度：8,306,562 回	2030 年度：12,500,000 回

※2020 年度は実績値、2030 年度は目標値

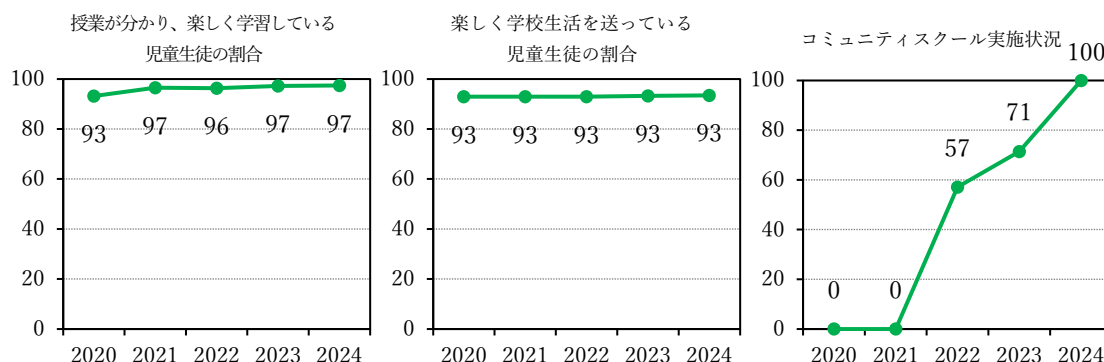
イ 指標ごとの達成度

ゴール1、2、3、4、5、8を対象としている健康・福祉、ゴール4を対象としている教育・文化、ゴール4、7、11、12、13、14、15、16を対象としている安心・安全、ゴール4、6、8、9、11、14、17を対象としている都市基盤整備では年により若干の増減はありますが、達成に向けてすでに基準を達成している項目もあるなど順調に推移しています。ゴール4、8、9、11、12、13、14、15、17を対象にしている産業分野の指標については新型コロナウイルス感染症の影響から回復基調ではありますが、指標によって伸びていない指標もあります。特に観光客数については観光に求めるものや価値観の変化など様々な影響により、数値の戻りが鈍化しています。

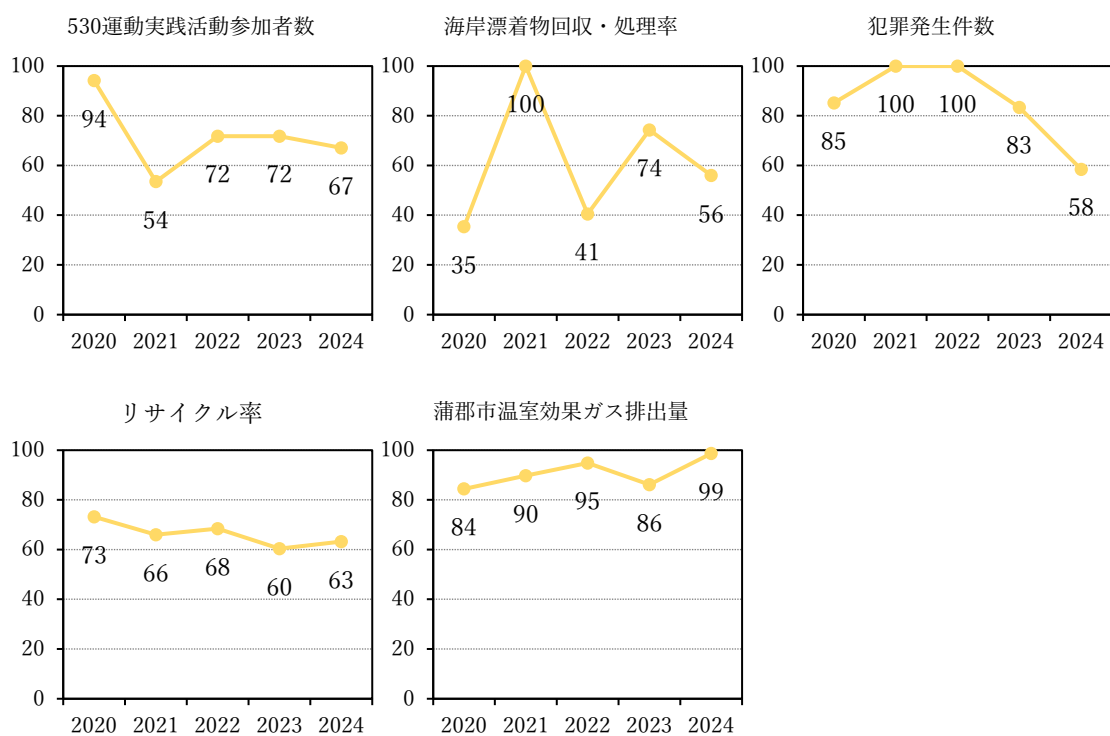
【健康・福祉】



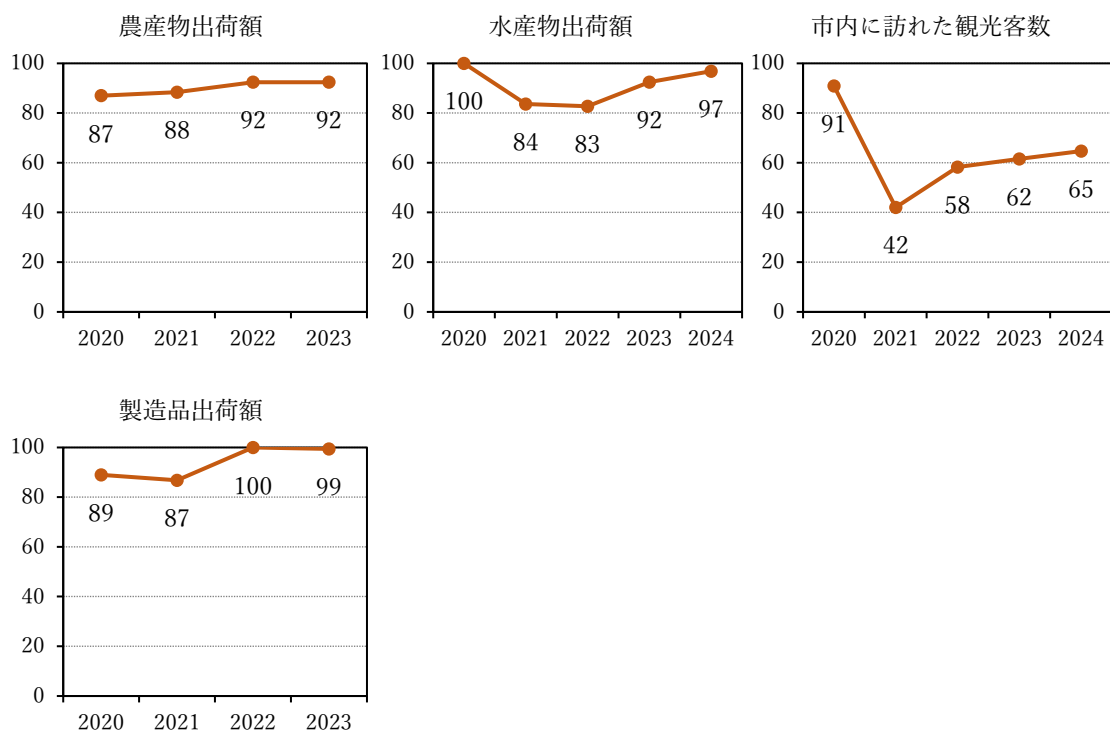
【教育・文化】



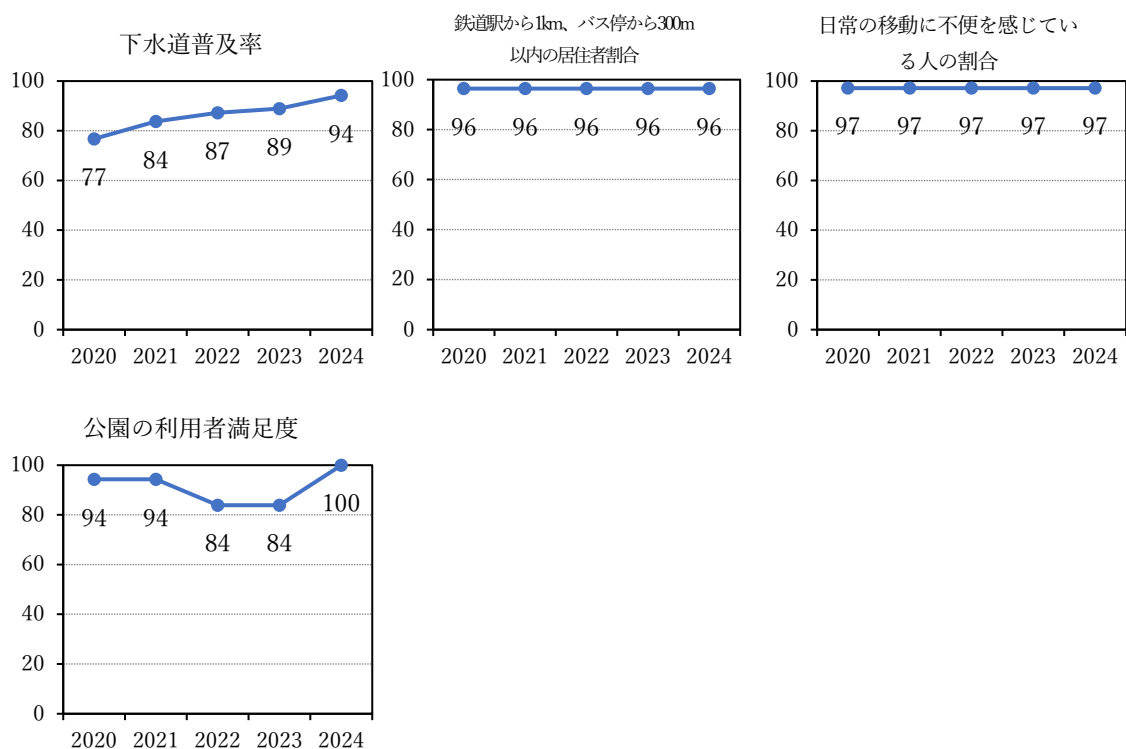
【安心・安全】



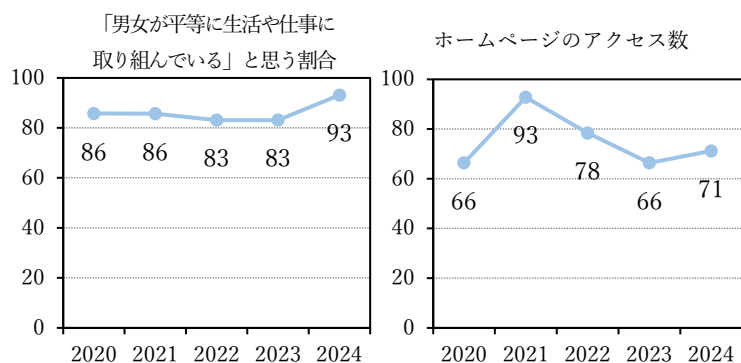
【産業】



【都市基盤整備】



【地域・行財政】



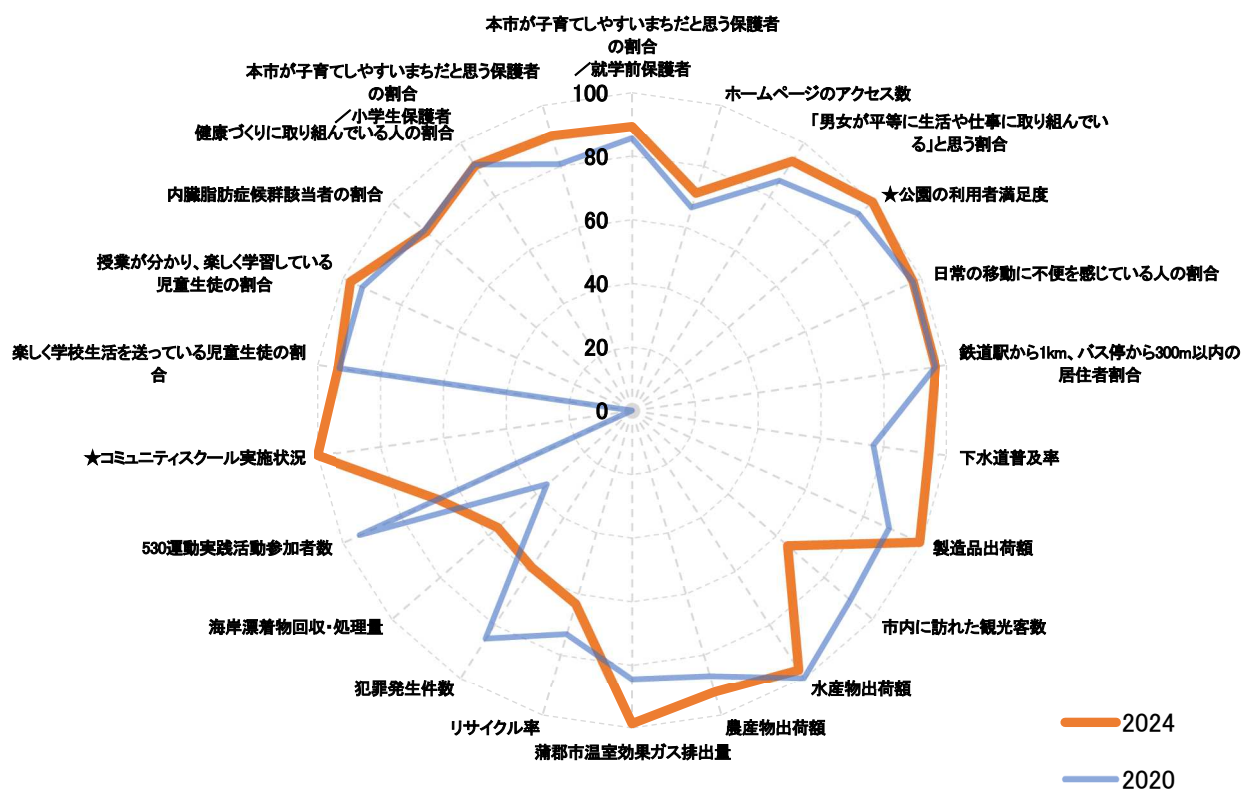
※単位：横軸は西暦（年）、縦軸は達成度（%）

※2025 年 5 月末現在で実績が出ていない指標は 2023 年度実績までを記載

ウ 2020 年からの変化

2020 年からの変化を確認すると 2024 年時点では複数の指標で後退している指標も見受けられますが概ね計画通りに進んでいます。後退している指標は詳細な分析を行い、施策の見直しの有無を検討し、改善を図ることが必要です。伸びている指標について引き続き各種施策を展開するとともに、さらなる発展のために新たな施策を検討することが 2030 年の SDGs の達成に向けた重要なポイントとなっています。

2020 年度と 2024 年度の達成度の比較



※ 円の外側に向かって達成率 100%

(3) SDGs 達成度指標と SDGs ローカル指標の比較

産業分野に大きく関わっているゴール 8 は、新型コロナウイルスの影響により達成度指標とローカル指標の双方の指標とも同じ傾向を示し、一時期低下しましたが、現在は回復途上にあります。一方で、ゴール 13、14、15 は達成度指標ではゴールごとの達成度、全国平均ともに高くなっていますが、ローカル指標ではリサイクル率や 530 運動実践活動参加者数、海岸漂着物回収・処理量などの指標が増減はありますが、横ばい傾向となっており、施策レベルでは市民にとって身

近にある自然環境を維持していくために改善していく必要があります。また、ゴール5は全国的に達成度が低いゴールであります。ローカル指標にある「男女が平等に生活や仕事に取り組んでいる」と思う市民の方の割合は増加しており、市民が感じる定性的な評価は上がっていますが達成度指標にはまだ反映されていない状況となっています。

達成度評価とローカル指標の2つの進捗を確認することで、全国と比較しての進捗を確認できるとともに市の具体的な施策の進捗とより詳細な内容を確認することができます。

10 今後のステップ

蒲郡市では、地理的特徴を活かし、バランスよくある産業を基盤としながら、経済、社会、環境の三側面を統合的に成長させ、都市として繁栄することを目指してきました。2021年度から2030年度を期間とした市の最上位計画である第五次蒲郡市総合計画では、SDGsの理念を取り入れ、施策との紐付けを行っています。2030年の蒲郡市のありたい姿を設定し、そこから取り組むべき施策をバックカスティングの手法で導いており、SDGsとも共通しています。

VLRは、自治体のSDGsの進捗だけでなく、都市としての強み、弱みも把握できるため、施策の進捗とあわせて確認することで、分析を深めることが可能になります。また、ゴールごとの達成度だけでなく、全国との比較や経年変化、ローカル指標などを交え、総合的に評価することで分析を深めることが可能です。

次のステップとして都市としての強みや弱みを含め、事業の評価を行いながら、事業の着実な実施を行っていきます。実施していく上でも、市民をはじめ、地域内外の関係者や自治体との連携は欠かせません。SDGsに取り組む他の自治体、市内の企業などの関係者とネットワークを広げ、蒲郡市が描く「豊かな自然一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」として発展することを目指していきます。

1 1 付属書

目標・ターゲットの進捗状況において用いた指標の詳細を紹介します。

(1) SDGs 達成度指標

SDGs 達成度評価は、「自治体 SDGs モニタリングの手引き」において独自に設定されたものです。SDGs の達成度評価について、その値を評価するために目標値と基準値の設定を行っていますので、詳細は「自治体 SDGs モニタリングの手引き」をご参照ください。

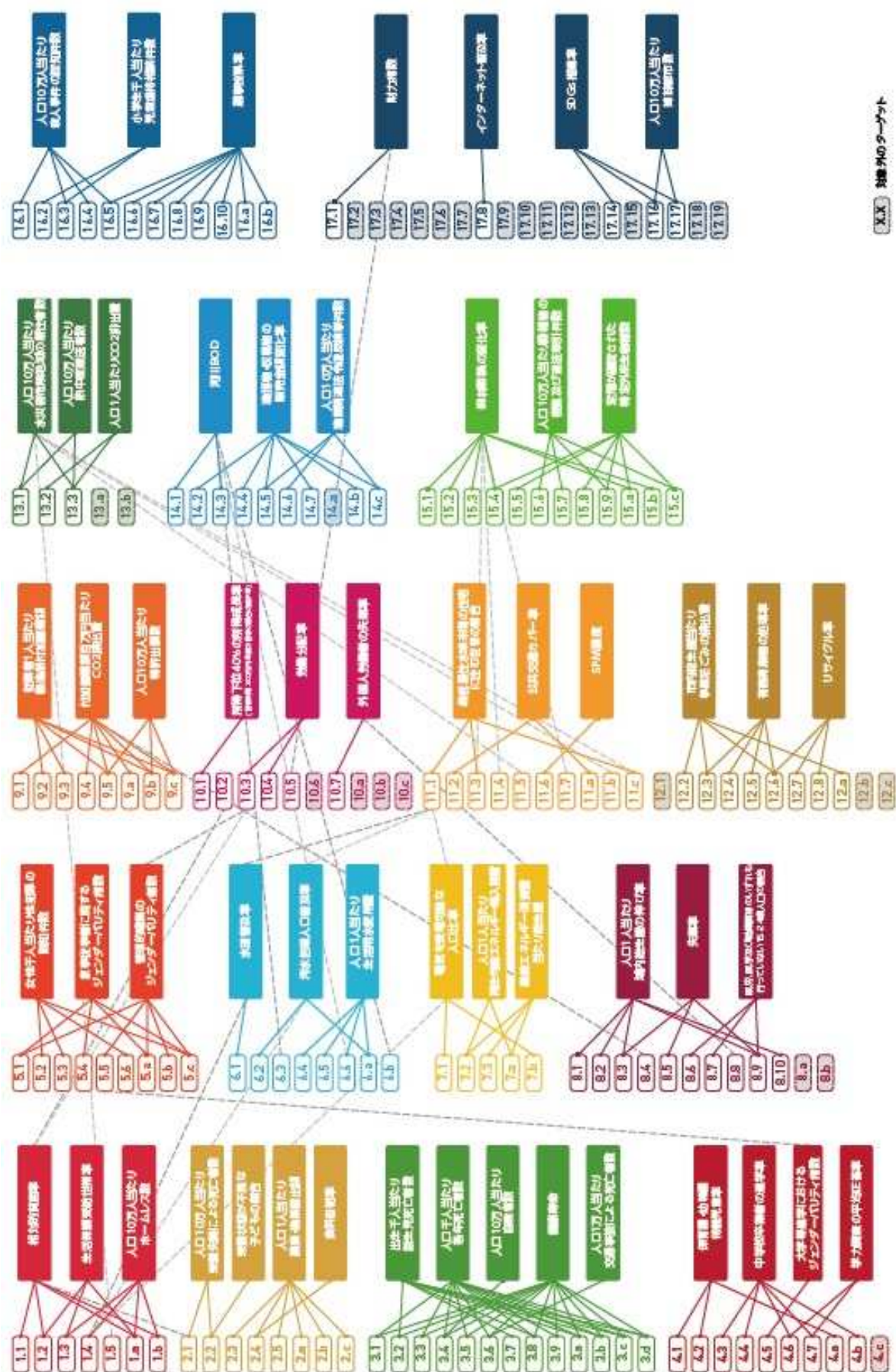
<指標リスト>

指標 番号	地域 SDGs 達成度指標	対応 SDG	方向	市区町村 評価	
1	相対的貧困率	1	2	10	-
2	生活保護受給世帯率	1			- ※ 3
3	人口10万人当たりホームレス数	1			- ※ 1
4	人口10万人当たり災害失調による死亡者数 ※過去3年平均	2			- ※ 3
5	栄養状態が不良な子どもの割合 ※過去3年平均	2			- ※ 2
6	人口1人当たり医療・介護費支出額	2			+
7	食料自給率(カロリーベース)	2			- ※ 2
8	出生千人当たり新生児死亡率 ※過去3年平均	3			-
9	人口千人当たり若年死亡率 ※過去3年平均	3			-
10	人口10万人当たり自殺者数 ※過去3年平均	3			-
11	健康寿命	3			+
12	人口1万人当たり交通事故による死亡者数 ※過去3年平均	3			- ※ 2
13	保育所・幼稚園待機児童率 ※過去3年平均	4			-
14	中学校卒業後の進学率 ※過去3年平均	4			+
15	大学等進学におけるジェンダーパリティ指数 ※過去3年平均	4	5		N
16	学力調査の平均正答率 ※過去3年平均	4			+
17	女性千人当たり性犯罪の認知件数 ※過去3年平均	5			- ※ 3
18	家事従事者に関するジェンダーパリティ指数	5			N
19	管理的職員のジェンダーパリティ指数	5	10		N
20	水道普及率	6	1	11	+
21	汚水処理人口普及率	6			+
22	人口1人当たり生活用水使用量(取水量ベース)	6			- ※ 2
23	電気・暖房可能な人口比率	7			+
24	人口1人当たり再生可能エネルギー導入容量	7			+
25	最終エネルギー消費量当たり域内総生産	7			+
26	人口1人当たり域内総生産の伸び率	8			+
27	失業率	8			-
28	就労・就学及び職業訓練のいずれも行っていない15～24歳人口の割合	8			-
29	従業者1人当たり製造品付加価値額	9			+
30	付加価値額百万円当たりCO ₂ 排出量	9	8		-
31	人口10万人当たり特許出願数	9			+
32	所得下位40%の所得成長率(世帯所得300万円未満の世帯の割合の減少率)	10			+
33	労働分配率	10			+
34	外国人労働者の失業率	10	8		- ※ 3
35	最近居住水準未満の住宅に住む人口の割合	11			-
36	公共交通カバー率	11			+
37	SPM濃度	11			-
38	域内総生産当たり事業系ごみの排出量	12			-
39	有害廃棄物の処理率	12			+
40	リサイクル率	12			+
41	人口10万人当たり水災害危険地域の居住者数	13			-
42	人口10万人当たり熱中症患者数 ※過去3年平均	13			- ※ 2
43	人口1人当たりCO ₂ 排出量	13			-
44	河川BOD	14	6		-
45	廃棄物・収容物の販売金額変化率	14			+
46	人口10万人当たり消費者運動法違反検挙件数 ※過去3年平均	14			-
47	森林面積の相変化率	15			+
48	人口10万人あたり動植物密猟及び違法取引件数 ※過去3年平均	15			- ※ 3
49	面積当たり確認された外来生物種数	15			- ※ 2
50	人口10万人当たり殺人事件の認知件数 ※過去3年平均	16			- ※ 3
51	小学生千人当たり児童虐待相談件数 ※過去3年平均	16			- ※ 3
52	高等学校率	16			+
53	財政力指数	17	10		+
54	インターネット普及率	17			+
55	SDGs推進率	17			+
56	人口10万人当たり特設都市数	17			+

注)対応SDGはゴール別評価において設定するゴールを示す

※1:中核市未満は0人とする ※2:都道府県平均を使用 ※3:データがない市区町村は都道府県平均を使用

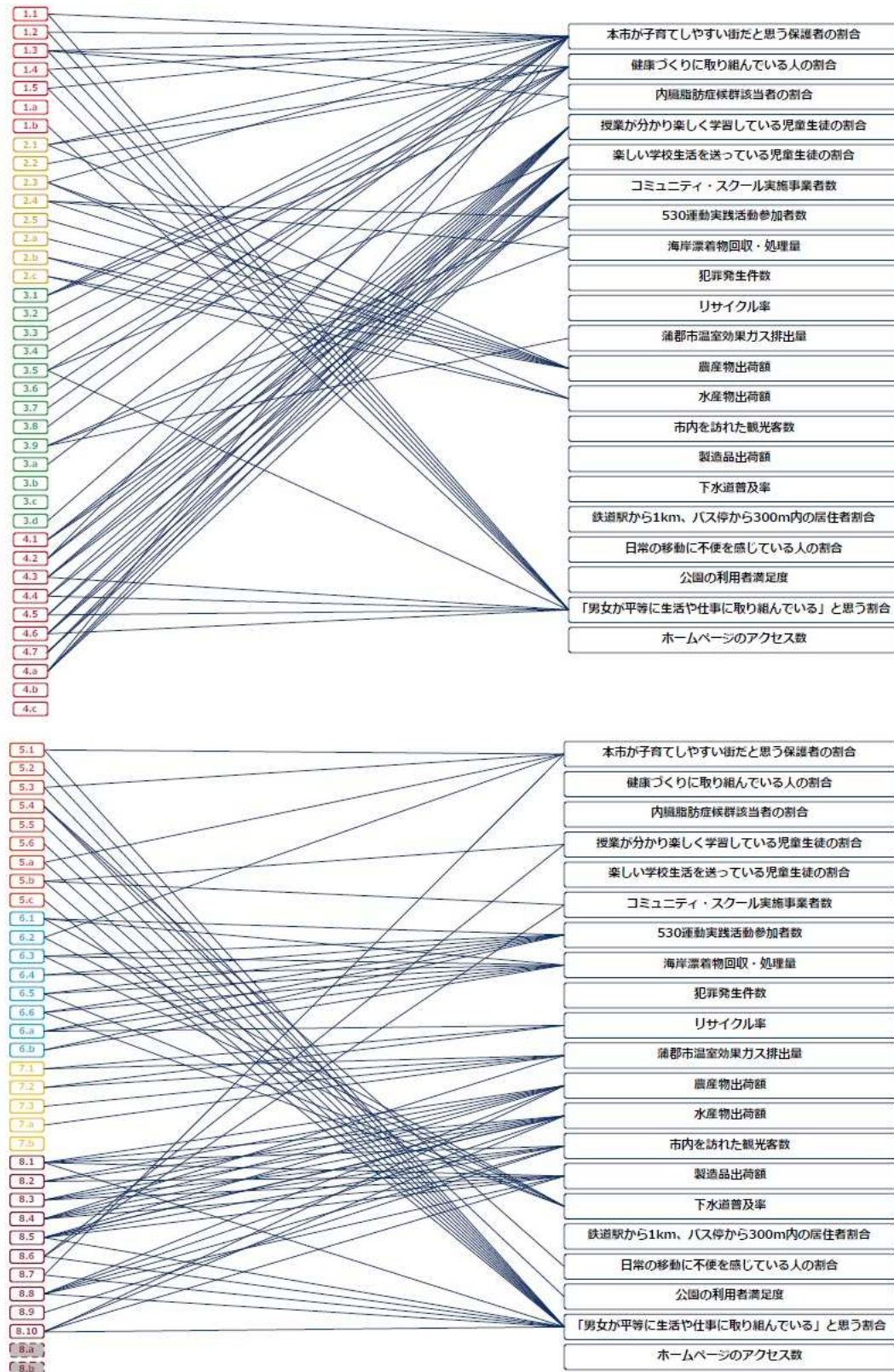
<ターゲットと指標との関係>

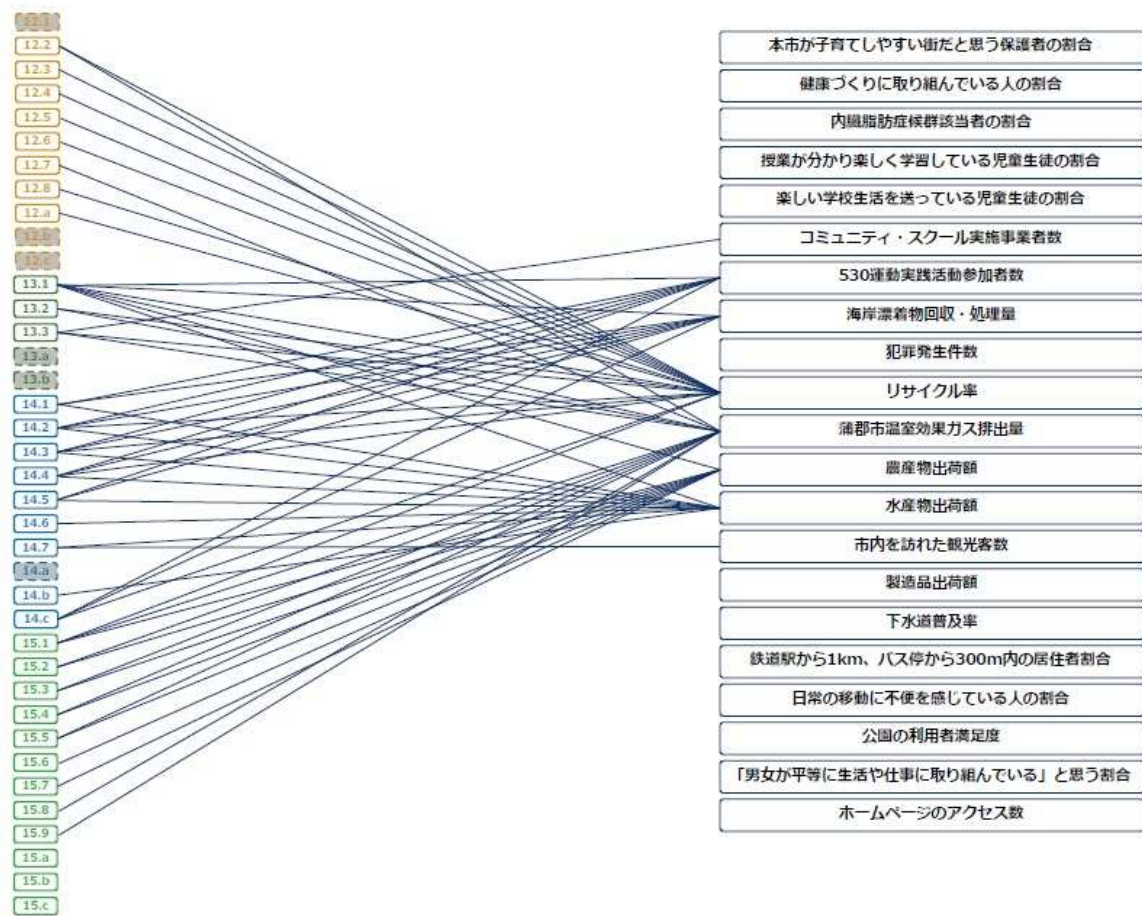
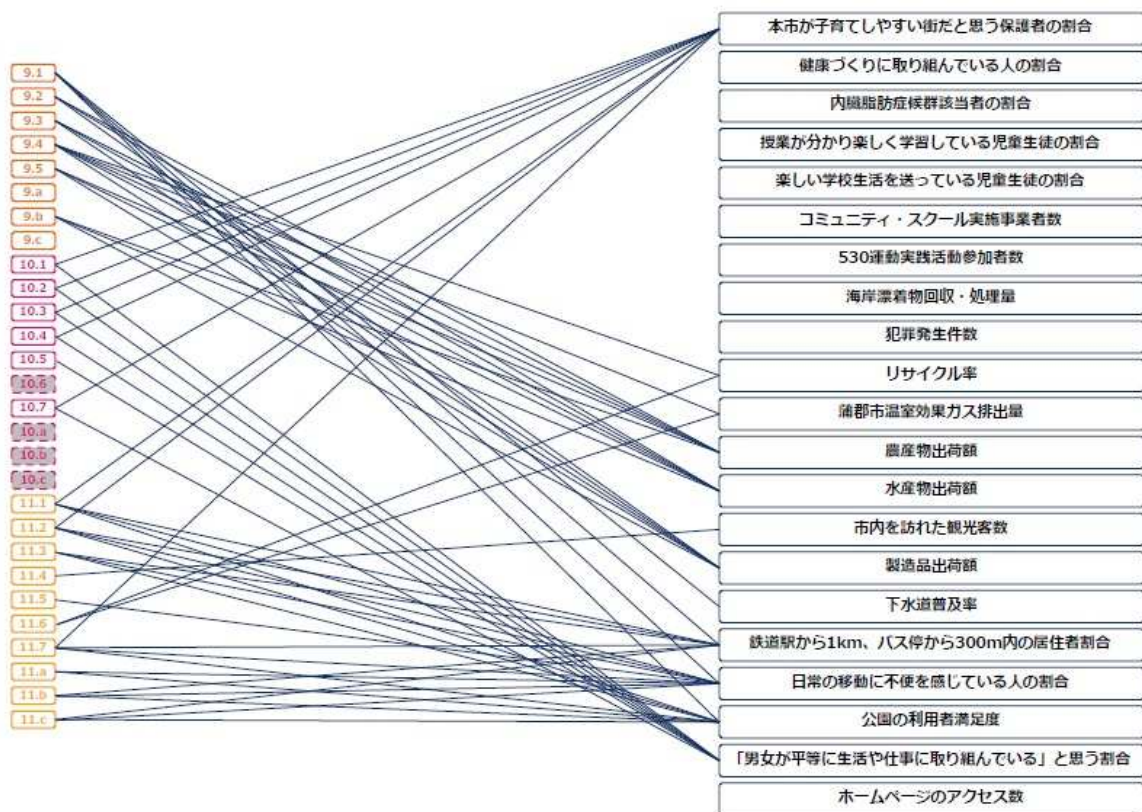


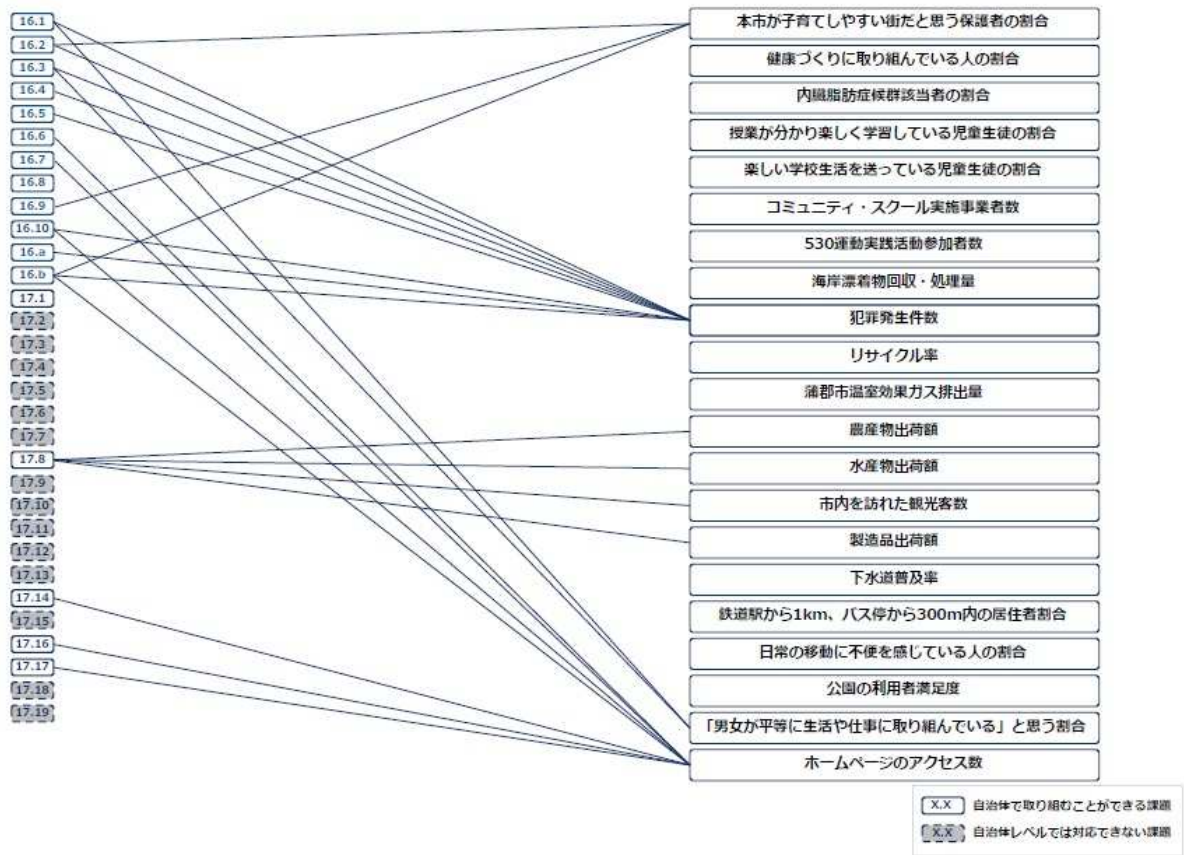
(2) SDGs ローカル指標

SDGs ローカル指標は、自治体 SDGs 達成度指標に準じ、169 のターゲットとの関連について確認し、網羅的な指標を設定しています。

<ターゲットと指標との関係>







企画・編集：愛知県蒲郡市企画部企画政策課サーキュラーシティ推進室

発行者：愛知県蒲郡市

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号

TEL：0533-66-1111（代表）

E-mail：circular@city.gamagori.lg.jp

Web：https://www.city.gamagori.lg.jp/

発行年月：2025 年 8 月